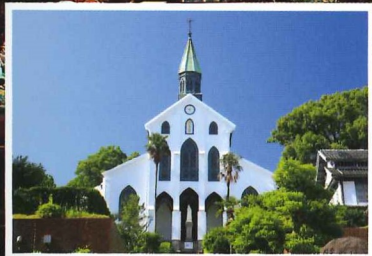


教科書に出てくる  
**遺跡と文化財**を  
訪ねる



**③ 武士の時代**

(平安時代末期・鎌倉・室町・安土桃山・江戸時代)

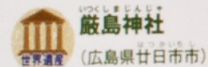


あすなろ書房

# 武士の時代の基礎を築いた 平清盛が崇拝した神社

平安時代の後半になると、朝廷や貴族の警護にあたりたり地方の反乱をしずめたりしていた武士が、力をもつようになります。平安時代末期には、平清盛を中心とした平氏が勢力をのばし、武士が貴族にかわって政治をおこなうようになりました。清盛が信仰したのが、世界遺産\*（文化遺産）に登録されている厳島神社です。

\*世界遺産：自然や文化的な建造物など、地球の営みや人類の歴史によって生み出された貴重で価値の高い宝物として、未来の人びとに引きついでいくべきもの。文化遺産、自然遺産、複合遺産があり、ユネスコ（国連教育科学文化機関）が、「世界遺産条約」にもとづき、認定と登録をおこなう。



広島県南西部の広島湾内にある厳島は、面積が30km<sup>2</sup>ほどの島です。日本三景\*<sup>1</sup>のひとつとして知られ、古くから、島全体が神として信仰されてきました。その島に厳島神社が創建されたのは、推古天皇元年（593年）といわれています。

現在の姿になったのは、平安時代末期のことです。朱塗りの社殿が、満潮のときに海に浮かんで見えたとされています。

じつは、この海上社殿は、平清盛が権力を握ったあとに、平氏の守り神として築いたものです。鎌倉時代には、2度の火災で社殿が焼失しましたが、そのたびに再建されました。現在のおもな社殿は、



国宝に指定されている摂社客神社。摂社客神社は、厳島神社に付属する神社で、該殿は、お参りをおこなうところ。

1241年に築かれたものですが、清盛が築いたものが忠実に復元されているので、平安時代の寝殿造\*<sup>2</sup>の特徴をいまに伝えているといわれます。

- \*1 日本三景：日本で、景色の良い3つの場所。厳島（宮島）のほか、宮城県の松島と京都府の天橋立。
- \*2 寝殿造：平安時代の中ごろに生まれた、貴族の住宅の様式。池や築山のある庭に面した寝殿という建物と、その左右や背後にある対屋という建物などが、渡廊という廊下で結ばれている。



国宝に指定されている回廊。幅は4mほど、総延長は275mほどあり、床板の間のすき間が、高潮のときに下から押し上がってくる海水の圧力を弱め、海水や雨水を海へ流す役割を果たしている。



重要文化財に指定されている、高さ16mほどの厳島神社大鳥居。大鳥居は、根元が海底にうめられていないものの、松の木の杭を打って地盤を強化し、柱と柱の上にわたされた箱型の島木の中に石をつめて重さを増すなどして、約60トンの総重量だけで立っている。



上空から見た厳島神社。海上の大鳥居の背後には社殿が並び、その背後には、原始林におおわれた弥山（標高535m）がある。



重要文化財に指定されている能舞台。能舞台は、能とよばれる演劇がおこなわれる舞台。

# 平和な時代の基礎を築いた 徳川家康をまつる神社

江戸幕府による全国支配のしくみが完成したのは、3代将軍の徳川家光の時代です。100年以上つづいた武力による戦いの時代は終わり、平和な時代が訪れました。家光は、その基礎を築いた祖父の徳川家康を尊敬し、家康を神としてまつる日光東照宮の大改装をおこない、いまの姿につくりかえました。

**東照宮**  
重要文化財 東照宮（栃木県日光市）

日光東照宮は、2代将軍の徳川秀忠が、父の徳川家康の遺言にもとづき、家康が亡くなった翌年の1617年に建てた東照社がはじまりです。1636年には、3代将軍の徳川家光の命で、当時のあらゆる工芸技術の粋を集め、あざやかな色にぬって金箔をはるなど、豪華絢爛な装飾をほどこした55棟の建物が巧みに配置されました。それにかかった費用は、金だけでも56万8千両と記録され、わずか1年5か月の工期で完成しました。

江戸時代には、将軍や例幣使（朝廷の使者）などが参拝したこともあり、幕府によって大切に保護されました。そして、明治維新による混乱を乗り越え、貴重な文化財として、今日に受けつがれました。

三猿の彫刻で知られる神麁舎（神に仕える馬をつなぐ厩舎）、天井に描かれた鳴竜で知られる本地堂、高さ約36mの五重塔などの建物のほか、家康の墓にあたる奥社宝塔、門や鳥居などが、荘厳な宗教空間をつくり出し、重要文化財に指定されています。ほかに、眠り猫の彫刻が見られる廻廊（廊下）、本殿、石の間、拝殿によって構成される本社や唐門（正門）などが、国宝に指定されています。



猿の一生を題材とした8枚の彫刻がある神麁舎。なかでも、「小猿三匹（三猿）」という彫刻は、子どものころは、悪いことを見たり聞いたり話したりせずに、素直な心で成長しなさいということを教えている。



手前に三具足が置かれた奥社宝塔。三具足は、ろうそくを立てる櫃の機台、線香をそなえる香炉、花をそなえる花瓶。



奥社への参道の入口近くの東廻廊にある「眠り猫」の彫刻。猫は、ネズミー一匹も通さずに家康の墓を守る見張り番という説もある。



611体の彫刻がほどこされている唐門。

**東照宮 陽明門**  
東照宮（栃木県日光市）

日光東照宮の代表的な建物で、きらびやかな2層造りの楼門です。花崗岩の土台の上に、櫓の丸柱が建てられ、間口が約7m、奥行が約4m、高さは約11mあります。

屋根には、唐破風\*があり、中央が盛り上がり、両端が反り返っているという特徴があります。軒下をはじめ、陽明門全体には、508体の彫刻がほどこされています。

彫刻は、日本最古の歴史書とされる『古事記』や逸話にもとづく偉人や聖人、唐子（中国の子ども）、唐獅子や竜、麒麟などの霊獣（想像上の動物）、実在の動物、菊や牡丹といった植物などです。そうした彫刻による立体的で美しい装飾が、一日中見てもあきないこともあり、「日暮の門」とよばれています。

しかし、日差しや風雪によって傷んだ部分も目立ち、近年、大修復がおこなわれました。2017（平成29）年3月、4年の工期が終了し、一般公開されました。



\*唐破風：中央部を凸形にし、両端部を凹形の曲線状にした破風。破風は、屋根の妻側（端）にある三角形の部分。



# キリスト教の取りしまりに 用いられたキリスト像

江戸時代初期の日本では、ヨーロッパの国々との交流がさかんで、貿易船とともに訪れた宣教師により、キリスト教が広められました。しかし、信者たちが命令に従わなくなることをおそれた幕府は、キリスト教を禁止します。そして、信者による大きな反乱をきっかけに、より厳しくキリスト教を取りしまりました。

## 長崎奉行所キリシタン関係資料（板踏絵）

東京国立博物館（東京都台東区）

長崎奉行所は、貿易の監督、外交、通商、外国人の警護などをおもな任務とする奉行が仕事をするために、江戸幕府が長崎に置いた役所です。キリシタン関係資料は、その長崎奉行所が、禁止されているキリスト教の取りしまりで使用した踏絵とともに、

信者から取り上げたキリスト像や十字架などの品物です。

踏絵は、キリスト教の信者を発見するために、人びとに踏ませた絵です。イエス・キリストや聖母マリアの絵や像を踏ませ、ためらったりこぼれだりした者は処罰されました。取りしまりは、1629年ごろにはじまり、江戸時代末期までおこなわれました。

当初は、紙や銅板に描かれた絵を踏ませていました。しかし、すぐに破れたりすり減ったりしたため、信者から取り上げたキリストや聖母マリアをあらわす大型のメダイ（メダル）を板にはめこんだ踏絵（板踏絵）が使われるようになりました。ところが、数が足りなくなってしまうため、真鍮（銅と亜鉛の合金）でつくった踏絵（真鍮踏絵）がつくられました。

江戸時代末期に、取りしまりがおこなわれなくなると、踏絵は、破棄されたり再利用されたりしました。そのため、現存しているものは少なく、残されたものも、その多くは、表面がすり減っています。



十字架上のキリスト像の真鍮踏絵。



聖母マリア像のメダイ（メダル）がはめこまれた板踏絵。

## もっと見てみよう

# 長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産



## 長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産

（長崎県南島原市、平戸市、長崎市、佐世保市、五島市、小値賀町、新上五島町／熊本県天草市）

江戸幕府によってキリスト教の信仰が禁じられてからも、表向きは仏教徒をよそおいながら、ひそかに信仰を守りつづけてきた人びとを、潜伏キリシタンといいます。2018（平成30）年、キリスト教への厳しい弾圧のなかで信仰を守りとし、共同体を存続させていくための生き方やくらし方がほかに例を見ないものと評価され、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が、ユネスコの世界遺産（文化遺産／IPB）に登録されました。

登録されたのは、右の地図に示した12の遺産（構成資産）です。これらは、「1. 宣教師不在とキリシタン「潜伏」のきっかけ」「2. 潜伏キリシタンが信仰を実践するための試み」「3. 潜伏キリシタンが共同体を維持するための試み」「4. 宣教師との接触による転機と「潜伏」の終わり」という4つの時代に分けることができます。



## 1. 宣教師不在とキリシタン「潜伏」のきっかけ

キリシタンが、何をきっかけに潜伏することになったのかを示す構成資産です。

### ①原城跡（長崎県南島原市）

キリシタンを中心とした農民が、キリスト教の禁止や重い年貢に反対して1637年におこした「島原・天草一揆」で立てこもった城の跡。一揆は、4か月かけて鎮圧されたが、大きな衝撃を受けた幕府は、ポルトガル船の来航の禁止やポルトガル人の追放をおこない、鎖国がはじまった。その結果、日本には宣教師がいなくなり、キリシタンは潜伏し、自分たち自身でひそかに信仰を守りつづけていくことになった。



上空から見た原城跡。右上は、発掘調査で出土した十字架などの信心具。



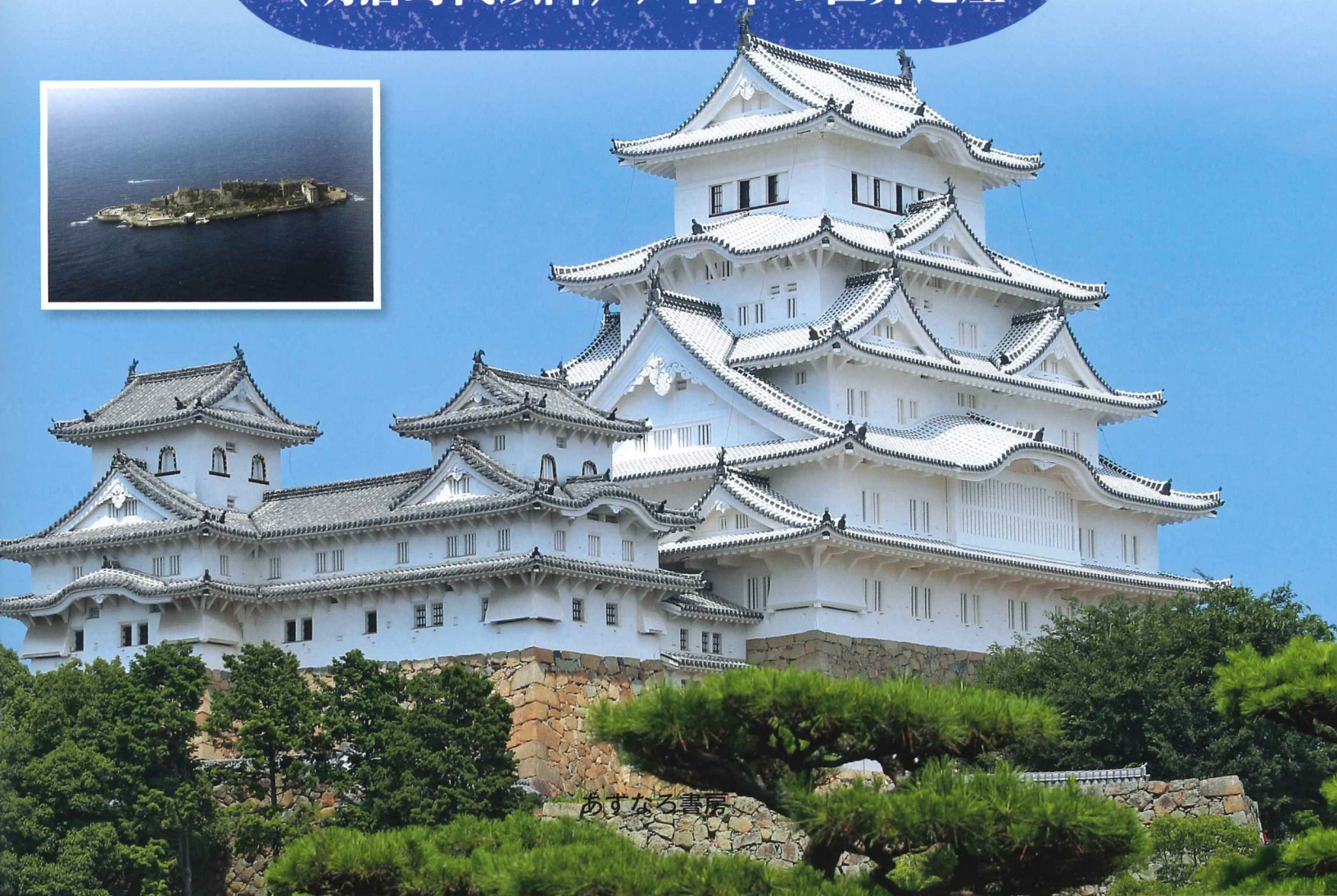
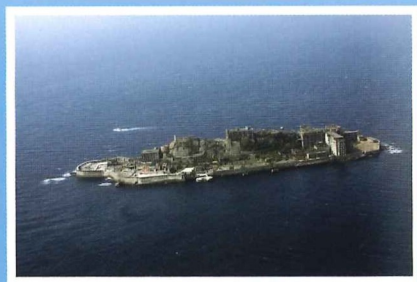
有馬キリシタン遺産記念館所蔵  
池田勉撮影

教科書に出てくる

# 遺跡と文化財を訪ねる



**4** 近代日本と新しい日本への歩み  
(明治時代以降) / 日本の世界遺産



# 欧米に負けない国づくりの ために建設された官営工場

江戸幕府に代わって明治新政府は、欧米の国々にと対等につきあえる国になろうと、近代的な産業をおこします。官営(国営)工場をつくり、外国から機械を買い入れて技術者を招きます。このページで見る富岡製糸場はその代表。全国から集められた女性たちが、進んだ技術を学び、生糸の生産・輸出を拡大していきました。



## 富岡製糸場と絹産業遺産群

(群馬県富岡市、伊勢崎市、藤岡市、下仁田町)

富岡製糸場は、フランスから器械<sup>※1</sup>と技術を導入して、1872(明治5)年に開業した大規模な官営器械製糸工場です。「製糸」とは、「繭から生糸をとること」。この工場では当初、外国の製糸技術によって生糸を生産していましたが、しだいに技術を進歩させ、生産を拡大していきました。とくに、繭の生産技術(養蚕法)が発展。その背景には、養蚕農家の田島弥平が、養蚕技法「清涼育<sup>※2</sup>」を確立したことがあります。こうして生産された生糸のほとんどは、輸出され、外貨を獲得。富岡製糸場は、日本の産業の近代化に大きく貢献しました。

富岡製糸場とともに、「富岡製糸場と絹産業遺産群」としてユネスコの世界遺産(文化遺産・i24)に登録されているのは、右に記した「田島弥平旧宅」「高山社跡」「荒船風穴」です。

- ※1 器械：人間が直接動かし、比較的小型で小規模な装置や道具。
- ※2 清涼育：火力などを使って蚕室をあたためるのではなく、自然の気候にまかせて蚕を飼育すること。



### ①富岡製糸場

当初は官営だった富岡製糸場は、1893(明治26)年に民営化されてからも、1987(昭和62)年に閉鎖されるまで、90年以上にわたって操業をつづけた。その後は、歴史的な建造物として保存され、2006(平成18)年、重要文化財に指定された。主要な建物は、「木骨煉瓦造」とよばれ、木で骨組みをつくり、壁にレンガを積み入れてつくられている。上の写真は、繭を貯蔵していた東繭倉庫。下の写真は、生糸を生産していた操糸場の内部。



### ②田島弥平旧宅

田島弥平が、自らの理論にもとづいて改築した住居。多くの繭をあつかつて住居の屋根の上部には、換気用の窓が取り付けられている。



- ※3 清涼育：人工的に温度と湿度を管理する「温暖育」と、自然にまかせた「清涼育」の両方の長所を取り入れ、蚕を飼育すること。



### ③高山社跡

高山社は、高山長五郎が創設した養蚕教育機関。高山長五郎は、清温育<sup>※3</sup>という養蚕法を開発し、普及教育をおこなった人物。写真は、蚕を飼育していた蚕室。



### ④荒船風穴

蚕の卵の貯蔵技術の開発がおこなわれた場所。天然の冷風を利用した貯蔵施設で、当時としては、日本最大規模だったという。



# 住民を巻きこんだ激しい地上戦がおこなわれた沖縄県の戦争遺跡

日本は、1931（昭和6）年の満州事変\*をきっかけに、戦争への道をつき進みました。1937（昭和12）年、日中戦争がはじまり、1941（昭和16）年にはアメリカやイギリスなどを相手に太平洋戦争がはじまります。日本軍は敗戦を重ね、1945（昭和20）年、ついに沖縄諸島にアメリカ軍とイギリス軍を主体とした連合国軍が上陸。地上戦（沖縄戦）がはじまりました。

\*満州事変 満洲（現在の中国東北部）でおきた鉄道爆破事件をきっかけにはじまった、日本による満洲への侵略戦争。日本軍は、満洲全域を占領し、1932（昭和7）年には満洲国を建国して、政治の実権を握った。

## 沖縄県の戦争遺跡

「戦争遺跡」とは、明治時代から昭和時代にかけて日本がおこなった戦争に関連した施設跡や戦跡などで、戦争の悲惨さと平和の尊さを伝えるために保存されている遺跡のことです。

「沖縄戦」では、1945（昭和20）年3月26日に連合国軍が慶良間列島（沖縄島西方の島じま）に上陸。4月1日に沖縄島（沖縄本島）中部の西海岸に上陸した連合国軍は、日本軍と交戦します。日本軍は、本拠地とした首里城（那覇市／P33）を激しく攻撃され、島の南部に撤退します。

日本軍は、自然の洞窟（ガマ）を利用して、作戦陣地や野戦病院としました。そのため、ガマがアメリカ軍の攻撃対象となりました。ところが、ガマには住民たちも避難していたため、一般住民9万人以上を含めた20万人ほどが亡くなりました。

6月23日、日本軍を指揮していた責任者が自決し、7月2日のアメリカ軍による終結宣言で、沖縄戦は終結しました。

沖縄県の戦争遺跡のなかで、見学が可能なものや代表的なものは、次のとおりです。

### 旧海軍司令部壕（豊見城市）

1944（昭和19）年に、アメリカ軍との戦いに備える日本海軍が、司令部を置くために掘った地下陣地。カマボコ型に掘りぬき、コンクリートと杭で固めた横穴が450mほどつづいていたといわれ、約4000人の兵隊が収容されていた。戦後しばらく放置されていたが、1970（昭和45）年に遺骨収集を終え、司令官室を中心とした300mほどが復元され、見学できるようになった。



### 沖縄陸軍病院南風原壕（南風原町）

アメリカ軍の攻撃を避けるために横穴を掘って設けた病院壕。沖縄戦がはじまると、負傷した兵隊が次々と運びこまれ、軍医や看護婦、衛生兵とともに、「ひめゆり学徒」が治療や看護にあたった。「ひめゆり学徒」とは、陸軍病院に動員された女子学生のこと。軍と行動をともにし、その多くが命を落とした。いまでは、陸軍病院壕のひとつが公開され、専門のガイドの案内で見学できるようになっている。



### 糸数壕（南城市）

「アブチラガマ」ともよばれる全長270mほどの自然の洞窟は、もとは住民の避難壕だったが、日本軍の陣地や倉庫としても使用されるようになった。戦場が沖縄島の南部に広がると、南風原陸軍病院の分室となり、負傷した兵隊が600人以上も運びこまれた。沖縄島のガマのなかには、集団自決で多くの人が命を落としたところもあったが、このガマの住民や負傷兵は、アメリカ軍の投降勧告に従ってガマを出たため、死をまぬがれた。



### ひめゆりの塔（糸満市）

沖縄戦で亡くなった、ひめゆり学徒のための慰霊碑。アメリカ軍の攻撃で多くの学徒が命を落とした伊原第三外科壕の上に、終戦の翌年の1946（昭和21）年に建てられた。「ひめゆり平和祈念資料館」が近くあり、ひめゆり学徒の遺品や写真、生存者の証言映像、南風原陸軍病院壕の一部や伊原第三外科壕の内部を再現したジオラマなどを見ることが出来る。



### 沖縄県平和祈念公園（糸満市）

沖縄戦の激戦地となり、多くの人が命を落とした沖縄島南端の摩文仁とよばれる地域にある公園。沖縄戦の写真や遺品などを展示した「沖縄県平和祈念資料館」、沖縄戦で亡くなったすべての人びとの氏名を刻んだ「平和の礎」、戦没者の鎮魂と永遠の平和を祈る「沖縄平和祈念像」のほか、国立沖縄戦没者墓苑や50基の慰霊塔などがある。毎年6月23日には、沖縄全戦没者追悼式がおこなわれている。

上空から見た沖縄県平和祈念公園。左の白い塔は、内部に沖縄平和祈念像のある沖縄平和祈念堂。その右奥には、沖縄県平和祈念資料館と平和の礎とともに、太平洋が見える。



# 「神宿る島」宗像・沖ノ島と 関連遺産群

九州の北西の海域に広がる玄界灘にある沖ノ島は、古くから「神宿る島」として信仰されてきました。沖ノ島は、「沖津宮」という福岡県の宗像大社の3つの宮のうちのひとつで、海上の安全を願う場所とされていました。世界遺産を構成するのは、宗像大社の残る2つの宮（中津宮と辺津宮）を含む8つの資産です。

世界遺産を構成する8つの資産は、九州本土から約60km離れた沖ノ島に4つ、九州本土から約11km離れた大島に2つ、九州本土に2つあります。また、沖ノ島には沖津宮、大島には中津宮、九州本土には辺津宮があり、これら3つの宮をまとめて、「宗像大社」とよんでいます。

●福岡県宗像市、福津市



## ①沖ノ島の資産

沖ノ島は、宗像大社沖津宮の境内にあたる。そこへ向かうときの鳥居のような役割を果たすが、3つの岩礁（小屋島、御門柱、天狗岩）だ。また、沖ノ島は、島全体が信仰の対象とされ、昔から立ち入りが厳しく制限されてきた。発掘調査によって出土した約8万点の品は、4世紀から9世紀にかけておこなわれた祈りのときに供えられたもので、すべて国宝に指定されている。



宗像大社沖津宮の社殿。ここでは、10日ごとに交代で沖ノ島にわたる宗像大社の神職が、毎朝神事をおこなう。

## 沖ノ島の出土品



沖ノ島。面積は0.7km<sup>2</sup>ほどで、周囲は約4km。



## ②大島の資産

宗像大社沖津宮遙拝所と宗像大社中津宮がある。宗像大社沖津宮遙拝所は、神宿る島として立ち入りが制限されている沖ノ島を拝むための場所。

宗像大社中津宮。現在の本殿は、17世紀ごろに再建されたもの。



宗像大社沖津宮遙拝所（左）。空気がすんだ日には、上の写真のように、沖ノ島の姿がはっきりと見える。



## ③九州本土の資産

宗像大社辺津宮と新原・奴山古墳群がある。新原・奴山古墳群は、沖ノ島での祈りをおこなった古代の豪族の宗像氏の墓で、5世紀から6世紀にかけてつくられた41基の古墳が現存する。



新原・奴山古墳群。古墳の奥には、沖ノ島と大島のある玄界灘が見える。

宗像大社辺津宮。写真奥の本殿と写真手前の拝殿は、16世紀末に建てられたもので、重要文化財に指定されている。

# 姫路城

姫路城が現在の姿になったのは、17世紀のはじめです。明治維新<sup>\*</sup>により、多くの城が取りこわされるなか、姫路城は競売に出され、城下の金物商が落札したことで、保存されることになりました。第二次世界大戦の空襲でも被害をのがれ、いまでも江戸時代初期の建物が多く残り、8棟が国宝に、74棟が重要文化財に指定されています。

<sup>\*</sup> 明治維新：徳川将軍家が没落し、国の支配権を天皇親政にもどした政治的革命のこと。ここから、日本の政治的、経済的、社会的大変革の時代がはじまった。

日本全国には、たくさんの城跡があります。なかには、江戸時代やそれ以前につくられた櫓や門などが残っていて、重要文化財に指定されているものもあります。しかし、天守<sup>\*</sup>が残る城は、12しかありません（→右ページ）。とくに姫路城は、木造建築としての規模は世界最大級。城の主要部分がほぼ完全な形で残り、日本の城郭建築の最高傑作といわれています。

姫路城の歴史は、室町時代初期の1346年、この地を治めた赤松氏が、姫山とよばれていた場所に城を築いたことにはじまります。1580年には、羽柴秀吉（のちの豊臣秀吉）が織田信長の命令で中国地方一帯を支配する毛利氏を攻めることになり、姫路城を拠点にします。そのときに、3層の天守を築いたといわれています。

その後、1600年の関ヶ原の戦い<sup>\*</sup>の功績で播磨国（現在の兵庫県南西部）を与えられた池田輝政が、秀吉の築いた石垣などの一部を活用し、現在の姫路城を築き上げました。

なお、姫路城は、白壁の美しさから「白鷺城」と

●兵庫県姫路市



2015（平成27）年に、平成の大改修を終えた姫路城。右は、5層7階建ての天守。左は、3つの小天守のうちの2つ。

もよばれていますが、優雅な姿でありながら、敵の攻撃を防ぐための機能がしっかりと備えられています。それは、天守のほか、天守へ向かう途中で見える櫓や土塀などからも、知ることができます。

- <sup>\*</sup> 1 天守：城の本丸に築かれた、もっとも高い建物。
- <sup>\*</sup> 2 関ヶ原の戦い：豊臣秀吉の死後、その家来として政治をおこなってきた石田三成（西軍）と、勢力をのびてきた徳川家康（東軍）とのあいだで、美濃国（現在の岐阜県南部）の関ヶ原でおこった戦い。

●敵の攻撃を防ぐ姫路城の機能



破風

天守や櫓の側面にはり出た小さな屋根。屋根の下に設けられた小部屋は、戦いのときの陣地ともなり、鉄砲の先端を外に出し、敵に撃ちかけることができるようになっている。

石垣

土を盛り上げてつくった土塁の上に石を積んだもの。急な斜面の部分や反り返った部分もあって、敵が登りにくいようにしてある。



櫓

見張りや敵への射撃などを目的に城壁の角などにつくられた建物。矢をたくさん保管していたので、「矢倉」とも書く。

石落とし

石垣を登ってくる敵の侵入を防ぐために石を落とす、天守や櫓のはり出た部分。



狭間

天守、櫓、土塀などの壁に設けられた穴。鉄砲の先端を外に出し、敵を撃つ。

●天守が現存する12の城

| 名称   | 所在地    | 文化財の種類 | 名称     | 所在地     | 文化財の種類 |
|------|--------|--------|--------|---------|--------|
| ①弘前城 | 青森県弘前市 | 重要文化財  | ①松江城   | 島根県松江市  | 国宝     |
| ②松本城 | 長野県松本市 | 国宝     | ②備中松山城 | 岡山県高梁市  | 重要文化財  |
| ③丸岡城 | 福井県坂井市 | 重要文化財  | ③丸亀城   | 香川県丸亀市  | 重要文化財  |
| ④犬山城 | 愛知県犬山市 | 国宝     | ④松山城   | 愛媛県松山市  | 重要文化財  |
| ⑤彦根城 | 滋賀県彦根市 | 国宝     | ⑤宇和島城  | 愛媛県宇和島市 | 重要文化財  |
| ⑥姫路城 | 兵庫県姫路市 | 国宝     | ⑥高知城   | 高知県高知市  | 重要文化財  |



# 富士山—信仰の対象と 芸術の源泉

標高3776mで、日本一高く、姿かたちが美しい富士山は、古くから日本人の信仰の対象とされてきました。また、富士山を題材にした文学作品も多く、浮世絵<sup>うきえ</sup>をはじめとした絵画などの芸術作品もたくさん生み出されています。昔から登山者も多く、ピークだった2010（平成22）年には、約32万人が登りました。

※浮世絵：江戸時代に流行した、庶民の日常を描いた絵画（→第3巻P38）。

富士山の世界遺産を構成するのは、富士山そのものだけでなく、下の地図に示す登山道、まわりにある神社や湖、湧水池や洞穴などが含まれます。ここでは、①富士山城、②富士山本宮浅間大社、⑨⑩御師住宅、⑮～⑳忍野八海などを見てみます。



## ①富士山城

「富士山城」は、富士山の標高1500m以上の地域をいう。山頂付近の宗教遺跡群や4つの登山道、西湖、精進湖、本栖湖の3つの湖などがある。

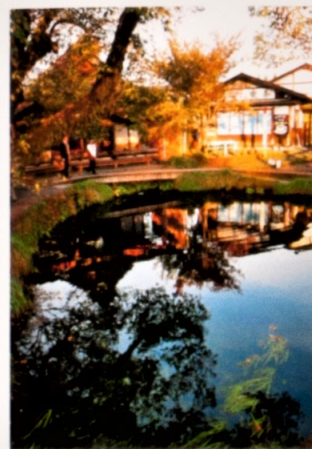
## ②富士山本宮浅間大社

「富士山本宮浅間大社」は、全国に1300ほどある浅間神社の総本山。「浅間神社」は、富士山を信仰の対象とした神社のこと。世界遺産には、富士山周辺の8つの浅間神社が含まれる。



## ⑮～⑳忍野八海

「忍野八海」は、富士山の地下水を水源とする8つの湧水池をまとめた名称。富士山を信仰する人たちの巡礼地でもあった。



## ④船津胎内樹型

「船津胎内樹型」は、神がまつられ、信仰の対象となっている洞穴のこと。樹型とは、火山の噴火による溶岩が森林地帯に流れこみ、もとの木の部分が燃えてしまっに残った空洞。人の胎内（母親の腹の中）のように感じられるため、「胎内樹型」とよばれる。



## ⑤三保松原

「三保松原」は、古代の和歌集の『万葉集』にもよまれた景勝地。駿河湾の向こうに富士山が見える。



## ⑨⑩御師住宅

「御師住宅」は、富士山を信仰する人びとの宿や食事の世話などをおこなった、御師とよばれる人の住宅。



## ⑪山中湖／⑫河口湖

山中湖（写真上）や河口湖（写真下）をはじめとした富士五湖は、富士山を信仰する人びとが水を浴びて身を清めるための水行がおこなわれた場所とされている。

